

日本(人)からの英語・英文での発信  
＜日本人執筆者のみに宛てて＞

ヨーロッパ・アメリカ以外（日本）ではじめて開催される TICCIH（国際産業遺産保存委員会：略称“ティッキー”）の会議に報告論文要旨を寄せていただいたことに感謝とお礼を申し上げます。

TICCIH は、1973年にアイアンブリッジで第1回を開催して以来2～3年おきに本会議を開き、次回(来年2006年イタリア；前回2003年ロシア)で第13回を数えます。提唱者の一人：ニール・コソズ氏(当時アイアンブリッジ館長、現在イングリッシュ・ヘリテッジ理事)はその後、産業[関連]博物館(マリタイム・ミュージアム、サイエンス・ミュージアム等)の改革刷新・産業遺産の保存と利活用における功績により“サー”の称号を得ておられます。TICCIH 中間会議(今回を含む)は、とくに1990年代から本会議を補完するだけでなく、ICOMOS(ユネスコ下部組織で“世界遺産”登録審査機関)各国委員会や産業文化財・産業観光を管轄する各国国内行政組織・機関との連携を密にするために、本会議と本会議の間に開催されるようになったものです。

一方、産業観光フォーラムは1996・7年頃から名古屋で“まちづくり”の一環として始まり、2000年頃からは毎回の1日バスツアー(4～6コース設定)に1000人を越える申込みがある「人気」を得ています。提唱者の須田寛氏(当時JR東海会長、現在は顧問)は「全国各地の商工会議所から講演依頼を受けている」そうです。

TICCIH(日本の機関会員は産業考古学会・中部産業遺産研究会)とフォーラムが共催し、愛知県と名古屋市が資金面で後援していただくので、長い名称の“国際会議”となった次第です。以上の経緯をご了解のうえでご参加下さい。

＜産業考古学会あるいは中部産業遺産研究会の会員でない方は、必ず会員になっていただかなければ(参加・聴講はできますが)発表は出来ません。ご注意下さい。＞

☆

議場報告(英語発表)には全て、市民・県民にも解かるように、同時通訳が付きます。しかしながら、海外からの参加者はほとんどが大学・博物館・文化財行政の専門家ばかりです。海外からの参加者や同時通訳者が理解出来ない英語・英文の論文は、(議場での要旨発表はお願いします)『英文論文集』には採択いたしません。(とくに国際会議に初めて報告される方は、この点を明確にご承知おき下さい。)

応募された要旨はすでに編集へ回っております。訂正(日・英とも)する場合は、産業観光国際フォーラム事務局(名古屋商工会議所)と折衝・相談下さい。(3月11日まで)そして了解を得られたなら、必ず「訂正(稿も)」を [jias@nifty.com](mailto:jias@nifty.com) に一報・送信して下さい。

日本から世界へ発信できることに誇りと喜びを感じております。

英文論文執筆要綱

<略訳：詳しくは英文を参照下さい。>

- 原稿は、印字したもの（ハードコピー）・ディスク・メール添付ファイルの、いずれかで提出して下さい。注記／備考・表・グラフ・写真は別紙に、あるいは本文とはファイルを別にして下さい。アブストラクトは既に提出されたものでも構いませんが、250～500語で書きなおしていただくことも可とします。

《ハードコピー提出の場合》

A4(用紙サイズ)にダブル・スペース、マージン(余白)は1インチ以上、右端にハイフンは禁則、で明瞭に印字したものを**2部**、下記へ送付下さい。

〒430 - 8533 浜松市野口町 1794 - 1 静岡文化芸術大学文化政策学部  
種田明研究室気付 TICCIH 日本委員会・編集委員会

《ディスク提出の場合》

ワード・ワードパーフェクト・アスキー (Mac・DOS・Windows) のいずれかで作成し、**MO (640MB)** で提出下さい。ディスクにはラベル(著者名、タイトル、使用ファイル・フォーマット名記して)を貼って、念のためハードコピーを1部添えて、上記へ送付下さい。

《メール添付で提出の場合》

メール・アドレス [ishida96@tcp-ip.or.jp](mailto:ishida96@tcp-ip.or.jp) へ送信してください。

件名(Subject)は : Paper of TICCIH 05 IC(中間会議)+(筆頭)著者のイニシャル、JPN (日本国号の略記)として下さい。<ウィルス付メールと区別するためです。>

例 ; Subject: Paper of TICCIH 05 IC, AO, JPN [A.O.は種田明のイニシャル]

- 「論文」は注記、図・表・写真・イラスト等を含め最大8頁(最少6頁)までとします。一般的な記載法は *The Chicago Manual of Style* の15版、あるいは *TICCIH 2000 Transactions* に準拠します。(インターネットの引用などはシカゴ・マニュアル参照)  
《脚注》—は論文末にまとめて下さい。  
《キャプション》—を必ず付けて下さい。対象名・作成日付・出所(典拠)・磁針(N)・撮影者名・作画者名など。  
《イラスト・写真》—の指定を鉛筆書きでして下さい。例：図1をここに入れる  
ハードコピー提出の場合、すべての添付資料(図・表・写真・イラストなど)には番号を付け、ラベルを貼り、(印刷のため)複写可能な形で提出ください。  
写真は白黒光沢プリントで、大きさは8in×10吋、裏には「写真番号」と上下間違えないよう上を示す「TOP」を書いてください。

《表》一には必ず表番号と表題を付けて下さい。

例； Table 1: JIAS Survey of Coal Mine in Japan

- ◎ ディスケット提出、あるいはメール添付で提出の場合、デジタル・カメラ／スキャナーの解像度による多少の不鮮明を気にされないなら、あるいは編集委員会（が発注した印刷所）を信頼されるなら、「完全原稿」にして提出いただくと編集委員会の時間短縮になります。ご協力をお願いします。
- 編集委員会は、貴方の PC に起因するエラー・送信エラー・紛失に対して責任を取ることではできません。必ずバック・アップをして下さい。

- 自己紹介・自己 PR をしたい方は、論文の最後に 100 語以内でお書きください。ただし、筆頭著者に限らせていただきます。

- ◇ 提出の締切は 5 月 31 日です。厳守して下さい。

執筆に関する照会先：ハードコピー、ディスク提出の場合

TICCIH 日本委員会・編集委員会 種田明 [oita@suac.ac.jp](mailto:oita@suac.ac.jp)

メール添付提出の場合

中部産業遺産研究会・事務局長 石田正治 [ishida96@tep-ip.or.jp](mailto:ishida96@tep-ip.or.jp)

- ◎ “New Developments in Industrial Tourism –Industrial Tourism and Community Building-” を刊行します(年内 11/12 月を予定)。予算の関係上、抜刷は不可、掲載論文一篇につき 2 冊を贈呈させていただき、編集委員会の職務終了とします。

---

### 論文発表・報告（プレゼンテーション）について

今国際会議に多くの発表申込が寄せられたため、発表時間が一人 20 分（質疑応答を含めて）ということになってしまいました。各位の持ち時間を過ぎましたら、発表途中でも議長権限で(強制的に)「打ち切り」とさせていただきます。

<この点を前もって告示し、ご理解いただきたく存じます。>

発表時に使用する機器：プロジェクターを使用される場合、会場の PC との相性が悪いことがありますので、必ずご自身の PC を持参下さい。ビデオは VHS のみ上映可能です。その他、使用機器に関することは「国際会議・会場／機器担当」へ前もって(6 月末までに)お申し越し下さい。照会先メール [ifitjapan2005@congre.co.jp](mailto:ifitjapan2005@congre.co.jp)

---

報告者名・論題・発表の場所(ルーム)・順番(何時から)[+正副議長名]は、3 月末/4 月初めに立ち上げる予定の HP「国際会議プログラム」(日・英とも)に掲載します。

(報告は、希望されたセッションとは異なるセッションに配属される場合もあります。該当する方はご了承下さい。希望セッションでの報告としてご発表下さい。)